

立川

10

立川と語ろう 立川に生きよう
October 2007
écoutez bien Vol.26 No.275



箱根の山をめざして走る!



写真：五来孝平

写真は2006年10月21日 第83回箱根駅伝予選会のもよう

ここがタチカワ!
ここも立川! ③

昭和記念公園 (緑町) 箱根駅伝予選会



毎年お正月は、箱根駅伝と決めている人も多いことだろう。いくつもの感動場面に涙し、ひた走る勇姿には親兄弟でなくても声援を送りたくなる。箱根の山を往復できるのは20チームのみ。前年大会でシード権を獲得した10校以外は、秋に行われる箱根駅伝予選会で出場の可否が決定する。

その予選会が立川で行われている。立川自衛隊駐屯地をスタートし、立川市街を走り抜け、昭和記念公園でゴールとなる。走行距離は20km。各校、エントリーした12名が同時に走る。上位10名の合計タイムによりまず6校が決まり、続く3校はインカレポイントの併用によって選ばれる。とにかく最初の6校に入ってしまいたい。チームの他選手がどんな状態かわからない中、他の選手より1秒でも速く、それぞれが自己ベストを出すつもりで走らないと最後にその1秒に泣くことになる。ここが予選会の難しいところだ。昨年も、一昨年も1秒に泣き、1秒に笑った。最終発表には悲喜こもごもの涙が流れる。最終の1チームは学連選抜チーム。予選会を通過できなかった出場校の記録上位者を中心に選ばれる。予選会の結果発表で、メンバーの前に頭を垂れ1秒に泣いていたチームエースを、1月の箱根路で学連選抜チームに見た時はこちらが涙した。

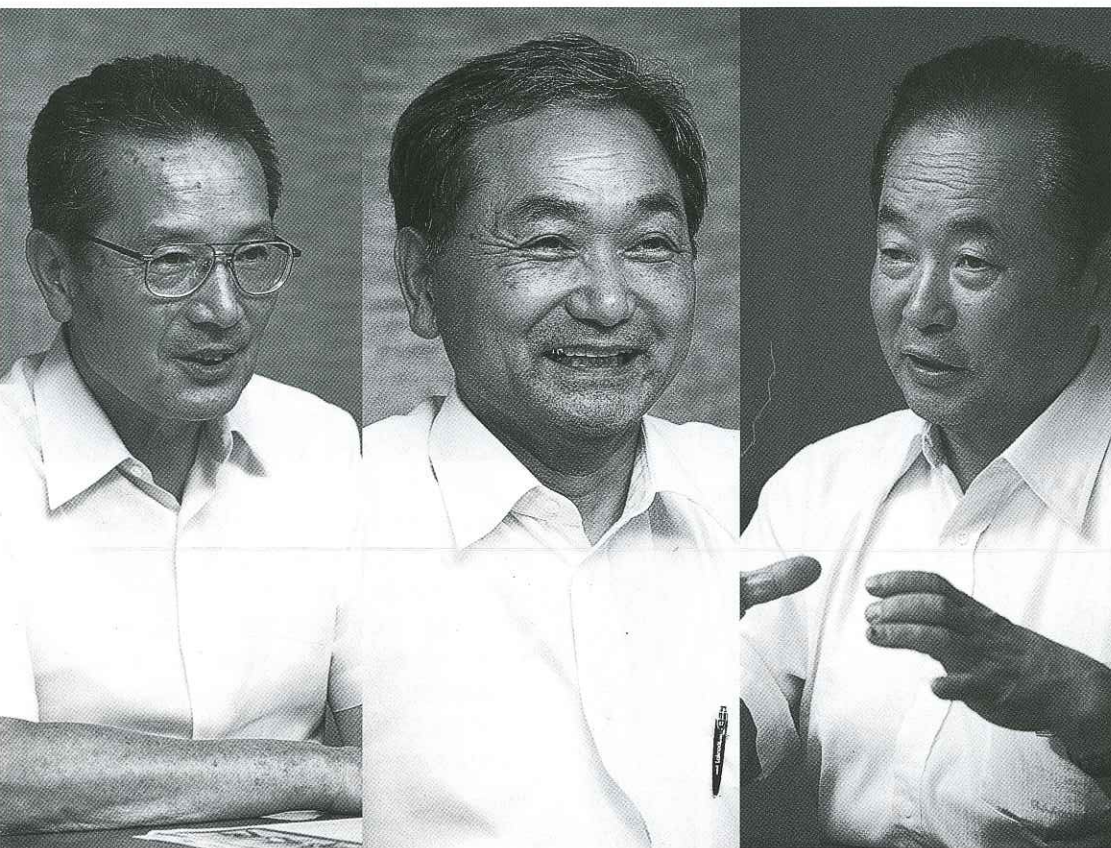
今年も箱根路を目指してエントリーするアスリートたち。今年こそ!の夢を実現させるべく、ひたすら練習に励んできた。自衛隊駐屯地には、各校の応援団が集り、応援旗が秋の風にひらめいている。さあ、まもなく一斉スタートだ。500人近い選手がスタートラインに、今か今かと号砲を待つ。



舞台では、みんな少年少女です

詩吟による“和風ミュージカル”公演を12回

「吟友人」の皆さん



於：立川市市民会館（アミュールたちかわ） 写真：五来孝平 左から笠井さん、坂本さん、福島さん

■吟友人（ぎんゆうじん）／漢詩吟詠の楽しさを多くの人に知ってもらおうと、立川と周辺の詩吟愛好者を中心に流派を超えて平成7年から「和風ミュージカル」の公演を行う。第7回から会場を千人以上が入る立川市市民会館（アミュールたちかわ）大ホールに移し毎回満員の盛況。今年8月の第16回たちかわ真夏の夜の演劇祭参加公演で、吟友人としての講演回数は12回となった。代表の笠井信吾さんは西砂町、脚本担当で総代表の福島克巳さんは柴崎町、総務担当でたちかわ演劇祭実行委員会委員長でもある坂本弘さんは錦町在住。

■芳賀 敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集長

芳賀 先日の山本周五郎作品から脚色した「人情裏長屋」の公演、初めて拝見したんですが、本当に素晴らしい舞台でした。

笠井 「吟友人」としては今回で12回目ですが、その前段を入れると30年くらい前からこういう試みをしてきているんです。立川はもともと詩吟が盛んで、たくさん流派がありますが、われわれ3人は吼山（こざん）流。年に1回、流の大会があるんですが、数が多くてなかなか出る機会がない。そこで福島さんが中心になって昭和54年に青年部を立ち上げました。せっかくやるなら何か目玉を作ろう。その一つが演劇を取り込んだ構成です。そのうちに、自分たちの吼山流だけでなく立川を中心に他流の有志にも参

加していただこうと「吟友人」の名称で活動を始めました。

坂本 吟者は「吟号」といって、号を持ちますが、「吟友人」は個人名で参加します。流派による枠を超える。その辺りに発展性があるんじゃないかと思ったんですね。

芳賀 お芝居の中に詩吟のあるミュージカル仕立て。今まで見たことがありません。

笠井 一般的に詩吟の会というと、詩吟と詩吟の間にナレーションが入る構成がほとんどです。吟友人のこういうスタイルは他にはないと思いますね。

坂本 早い話、大会で朝から夕方まで詩吟漬けていると、参加している自分たちでもたいくつになりますから（笑）。そ

れで福島さんが脚本を書いて、芝居仕立ての新しいことをやろうということになった。

福島 詩吟は分かりにくい。それでやる人が少なくなってきたりカラオケに流れたり。そういう危機感もありました。詩吟を聞いたことのない人にも分かってほしい、そして参加してほしいという思いから出来上がった構成でもあるんです。最初は放送劇スタイルで舞台装置も動きもなし。聞いている方がそれぞれのイメージの世界に入り込めたらいいなと。それから動いてみよう、芝居にしていこう、じゃあミュージカルにしようということになってきました。「吟友人」も最初はアミュールたちかわの小ホールで始め、お客さんを収容できなくなるので

大ホールに移り、大ホールでやるには演技指導の大多和勇氏、舞台監督の深尾哲氏、それぞれのプロの力も借りなければと、先日見ていただいたようなスタイルになりました。今でも舞台装置がほとんどないでしょ。芝居の流れの中で詩吟があり、見ている方それぞれにイメージの世界に入り込んでいたきたいんです。

芳賀 こう言っでは失礼ですが、拝見するまでは素人の方たちのお芝居だろうと思っていました。ところが幕が開いたら「プロの役者さん？」というレベルの高さでしたし、詩吟も漢詩、和歌、俳句と多彩。劇中では剣舞あり「かっぱれ」の踊りあり。涙あり笑いあり。何よりもあのホールがほとんど観客で一杯。これは凄いなと思いました。

坂本 公演後のアンケートによると初めて見たという方が約4割。リピーターが約6割。一度舞台を見てまた来てくださる方がお友だちを連れて来てくれるんじゃないでしょうか。アンケートの中に「日本芸能てんこ盛り」というのがあって（笑）、そういう楽しみ方をされると嬉しいですね。吟者もそうですが、伴奏の方、踊りを躍る方も、ひとつの舞台を作るために脚本に沿った表現で一体になってやっているわけですから。

笠井 ありがたいことに、都心から見に来て下さる方も多いです。舞台を見て自分もぜひ出たいとテープを添えて出演を希望する人も増えています。

福島 公演が終わってロビーでご挨拶をするんですが、お客さんが「良かったよ。来年も楽しみにしてるよ」と言って帰られる。そうすると来年もまたやらなくっちゃと思うんですね。それが

楽しみでもあります。毎回新しく脚本を書くわけで大変なんですけど、前よりもいいものを作ろうと思います。これがあるからやめられないのかもしれない（笑）。

芳賀 そうそう、「吟友人」はもう12回を重ねているのに、1回の公演ごとに一度解散するんだそうですね。

坂本 毎回打ち上げが解散式です。福島さんの台本ができたならまた招集する。次が確実にできるか分からない。マンネリにならないし緊張感がある。

笠井 4月から5月に新しい舞台の稽古に入りますが、西砂会館を借りて月に2回の日曜日、朝10時から夕方5時まで休みなし。みんな忙しい中でもほとんど休まないですね。

福島 吟者は師範級の人たちばかり。あとは演技指導の大多和勇さんの指導で芝居をどこまで練り上げるかです。それも回を重ねるごとにうまくなってきているんじゃないかな。稽古から本番まで、まず自分たちが楽しむ。それが続く秘訣だと思います。そうでないとお客さんを楽しませることもできませんから。

芳賀 みなさん舞台の上で実際に楽しそうに演じ、吟じていらっしゃいました（笑）。

坂本 出演者は中高年ですが、稽古場ではみんな子どもになれるんです。演技指導に素直に従うだけ。うちの娘なんか「みんな白髪まじりのガキみたい」と言いますが（笑）、舞台の上ではみんな本当に少年少女なんです。

大ホールに移り、大ホールでやるには演技指導の大多和勇氏、舞台監督の深尾哲氏、それぞれのプロの力も借りなければと、先日見ていただいたようなスタイルになりました。今でも舞台装置がほとんどないでしょ。芝居の流れの中で詩吟があり、見ている方それぞれにイメージの世界に入り込んでいたきたいんです。

芳賀 こう言っでは失礼ですが、拝見するまでは素人の方たちのお芝居だろうと思っていました。ところが幕が開いたら「プロの役者さん？」というレベルの高さでしたし、詩吟も漢詩、和歌、俳句と多彩。劇中では剣舞あり「かっぱれ」の踊りあり。涙あり笑いあり。何よりもあのホールがほとんど観客で一杯。これは凄いなと思いました。

坂本 公演後のアンケートによると初めて見たという方が約4割。リピーターが約6割。一度舞台を見てまた来てくださる方がお友だちを連れて来てくれるんじゃないでしょうか。アンケートの中に「日本芸能てんこ盛り」というのがあって（笑）、そういう楽しみ方をされると嬉しいですね。吟者もそうですが、伴奏の方、踊りを躍る方も、ひとつの舞台を作るために脚本に沿った表現で一体になってやっているわけですから。

笠井 ありがたいことに、都心から見に来て下さる方も多いです。舞台を見て自分もぜひ出たいとテープを添えて出演を希望する人も増えています。

福島 公演が終わってロビーでご挨拶をするんですが、お客さんが「良かったよ。来年も楽しみにしてるよ」と言って帰られる。そうすると来年もまたやらなくっちゃと思うんですね。それが

楽しみでもあります。毎回新しく脚本を書くわけで大変なんですけど、前よりもいいものを作ろうと思います。これがあるからやめられないのかもしれない（笑）。

芳賀 そうそう、「吟友人」はもう12回を重ねているのに、1回の公演ごとに一度解散するんだそうですね。

坂本 毎回打ち上げが解散式です。福島さんの台本ができたならまた招集する。次が確実にできるか分からない。マンネリにならないし緊張感がある。

笠井 4月から5月に新しい舞台の稽古に入りますが、西砂会館を借りて月に2回の日曜日、朝10時から夕方5時まで休みなし。みんな忙しい中でもほとんど休まないですね。

福島 吟者は師範級の人たちばかり。あとは演技指導の大多和勇さんの指導で芝居をどこまで練り上げるかです。それも回を重ねるごとにうまくなってきているんじゃないかな。稽古から本番まで、まず自分たちが楽しむ。それが続く秘訣だと思います。そうでないとお客さんを楽しませることもできませんから。

芳賀 みなさん舞台の上で実際に楽しそうに演じ、吟じていらっしゃいました（笑）。

坂本 出演者は中高年ですが、稽古場ではみんな子どもになれるんです。演技指導に素直に従うだけ。うちの娘なんか「みんな白髪まじりのガキみたい」と言いますが（笑）、舞台の上ではみんな本当に少年少女なんです。

大ホールに移り、大ホールでやるには演技指導の大多和勇氏、舞台監督の深尾哲氏、それぞれのプロの力も借りなければと、先日見ていただいたようなスタイルになりました。今でも舞台装置がほとんどないでしょ。芝居の流れの中で詩吟があり、見ている方それぞれにイメージの世界に入り込んでいたきたいんです。

芳賀 こう言っでは失礼ですが、拝見するまでは素人の方たちのお芝居だろうと思っていました。ところが幕が開いたら「プロの役者さん？」というレベルの高さでしたし、詩吟も漢詩、和歌、俳句と多彩。劇中では剣舞あり「かっぱれ」の踊りあり。涙あり笑いあり。何よりもあのホールがほとんど観客で一杯。これは凄いなと思いました。

坂本 公演後のアンケートによると初めて見たという方が約4割。リピーターが約6割。一度舞台を見てまた来てくださる方がお友だちを連れて来てくれるんじゃないでしょうか。アンケートの中に「日本芸能てんこ盛り」というのがあって（笑）、そういう楽しみ方をされると嬉しいですね。吟者もそうですが、伴奏の方、踊りを躍る方も、ひとつの舞台を作るために脚本に沿った表現で一体になってやっているわけですから。

笠井 ありがたいことに、都心から見に来て下さる方も多いです。舞台を見て自分もぜひ出たいとテープを添えて出演を希望する人も増えています。

福島 公演が終わってロビーでご挨拶をするんですが、お客さんが「良かったよ。来年も楽しみにしてるよ」と言って帰られる。そうすると来年もまたやらなくっちゃと思うんですね。それが



オリオン書房 第一パート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
お菓子の家 エミリーフロ-ゲ本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
カフェ クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888
三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151
Italian Cuisine サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662
Art&Caffee Room 新紀元	曙町2-7-21-4F 528-6952
多摩信用金庫 本店	曙町2-8-28 526-1111
たましんギャラリー	曙町2-8-28-9F 526-1111
旬彩懐石 若草茶屋	曙町2-8-30 526-0010
三上 鯉 節 店	曙町2-8-30 522-3259
輸入文具 ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
スタンドグラス ぱさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
輸入雑貨 BASE 26	曙町2-11-2-4F 548-4326
スパゲティー専門店 はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338
立川リージェントホテル	曙町2-11-7-2F 522-1133
フランス風家庭料理 ラ・フランス	曙町2-11-8-6F 529-5522
ビックカメラ 立川店	曙町2-12-2 548-1111
Wine & Dining るもん	曙町2-12-13 527-3022

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 曙町のお店です。

飲食店 玉河	曙町2-12-19 522-2654
三菱東京UFJ銀行 立川支店	曙町2-13-3 524-4121
ローソン 立川曙町二丁目店	曙町2-17-3-1F 526-7652
いわしの たかね	曙町2-17-5-1F 527-5958
カフェ アバン	曙町2-17-15-2F 527-4479
ダイエー 立川店	曙町2-18-18 525-0331
手打ちそば しえもと	曙町2-20-5 529-5468
サイクルショップ シンボ	曙町2-21-5 522-6211
天ぶら わかやま	曙町2-22-23-3F 525-0222
スペイン料理 ロス・クアトロ・ガトス	曙町2-23-9-2F 528-1654
園部肉店	曙町2-28-16 522-2901
アンティークと雑貨の店 Blue&Green	曙町2-30-8 522-6803
立川市女性総合センター アイム	曙町2-36-2 528-6801
三田花店 立川高島屋店	曙町2-39-3-1F 526-4187
エミリーフロ-ゲ 高島屋立川店	曙町2-39-3-3F 526-9788
立川高島屋 サービスフロア	曙町2-39-3-7F 525-2111
オリオン書房 ノルテ店	曙町2-42-1-3F 522-1231
(株)JTB法人東京 西東京支店	曙町2-42-1-8F 521-5550/5585
元祖つけ麺 味 幸	曙町3-4-2 527-4701
立食いそば・うどん むさし	曙町3-21-21-1F 521-0377

目指せ! 夢の「花園」

春季 東京都準優勝した昭和第一学園高校ラグビー部

ラグビーシーズン開幕。

4年に一度の世界カップがフランスで開かれ、

高校生ラグビーが憧れの花園ラグビー場を目指す全国高校ラグビー予選が始まった。

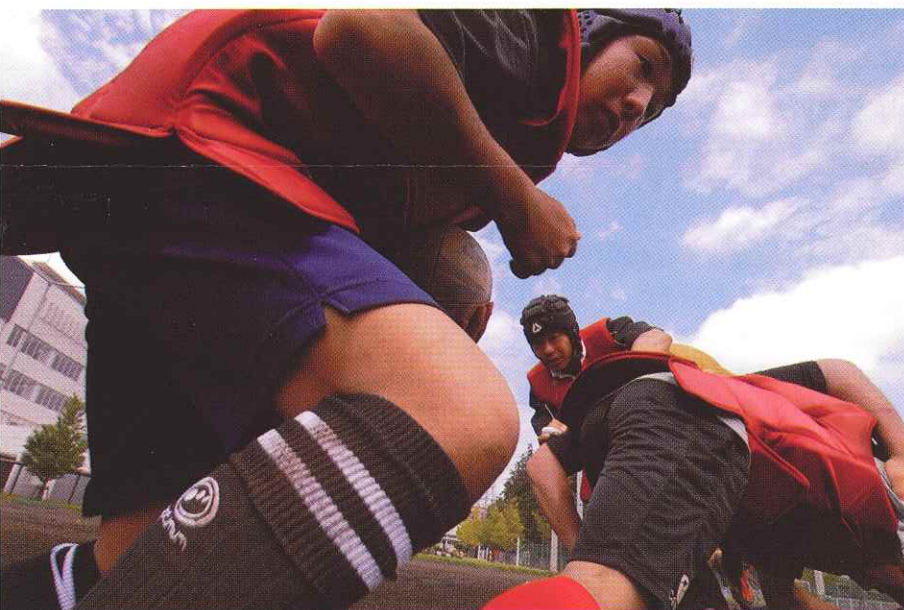
今年の東京都春季大会(10人制)で

準優勝を果たした昭和第一学園高等学校(高水 攻校長、栄町)ラグビー部もその一校。

昭和40年代には都地区決勝、関東大会に出た古豪が復活に燃えている。

部員数も少なくほとんどが高校でラグビーを始めた選手たちが汗と泥にまみれ、夢に向かって走る。

写真: 五来孝平 / 東京都春季大会・祝勝会の写真は昭和第一学園高校提供

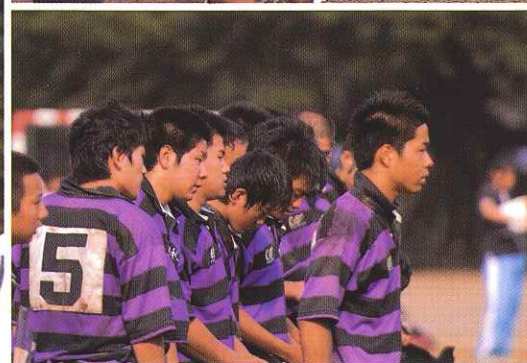
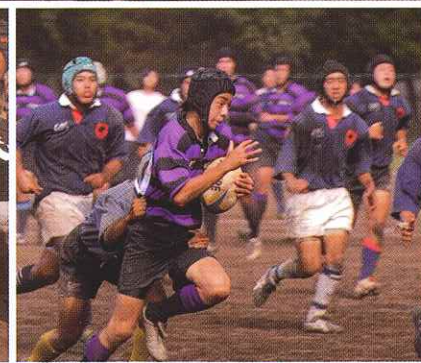
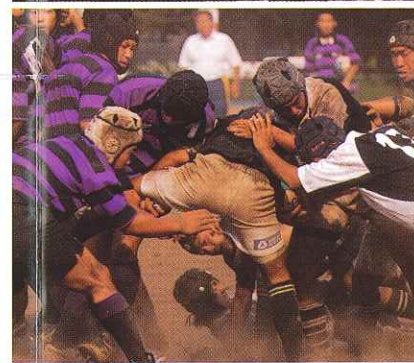


夏休みのグラウンドに部員たちが集まってきた。朝方までの雨で状態が心配されたが練習はできそう。ランニングの後ストレッチ、パス、キャッチ、タックル、モール……ひとりの練習を軽めにこなしたが、この日参加した部員は13人。信州・菅平での合宿で疲れている故障者もある。部員は女子マネージャーを含めて20人。15人制を戦うにはぎりぎりの数だ。

三浦脩五郎コーチは「それでもちゃんとラグビーらしくなっている」と目を細める。三浦さんは明大、日野自動車で活躍した元全日本代表選手。ほとんどが中学でラグビー経験のない部員たちが、顧問の安藤利秋先生や三浦コーチの指導を受けながら日々の練習と試合経験で高校生ラグビーに育っていく。この春には10人制決勝で合同チームに敗れたとはいえ、本当に久しぶりに都大会で入賞を果たした。同校の高水校長もラグビー部元顧問。OBを含め、秋にも期待がかかる。

8月最後の土曜日行われた練習試合。20分単位で戦った3ゲーム、昭和第一学園は全て勝った。春の準優勝から夏の合宿を経た手応えを感じた。素早くパスを回して相手ディフェンスにできた空隙を一気に攻めてトライ。速い展開とチームワークが身上だ。安藤顧問が選手たちに言う。「みんなのチームだということをおぼろげに。勝って楽しもう!」

いまだきの若者たちにラグビーは「きつい、汚い、危険」の代表かもしれない。15人が揃わず合同チームを組む高校も少なくない。そうした中で自前のフIFティーンで戦う昭和第一学園高校。ラグビーの別名は「紳士のスポーツ」。どんなに激しくてもフェア精神と相手を称える心を持ったスポーツ。「花園」に届こうと届くまいと、仲間たちと力を出し切った向こうに、ノーサイドがある。



7月1日に行われた祝勝会

10人制で準優勝した春季大会

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩ではこ
ネット

http://www.tamabako-net.ne.jp/

多摩ではこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamabako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじょうくがじょう

スカパーフェクトTV 216ch
マイ・テレビ 11ch

放送時間については番組表をご確認ください。

立川に育てられて七十一

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

立川産の
朝採り野菜を
食卓へ

5月～9月 12:00～18:00
10月～2月 12:00～17:00
休日 日曜・祭日

JA東京みどり 幸町直売所
〒190-0002 立川市幸町1-14-1
Tel 042-536-2439

大廣社は今、知的集約型企業を実践しています。

先進のシステムと最新技術との融合



株式会社 大廣社
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13
tel 042-527-1911
fax 042-527-1949
E-mail info@daiokusa.jp
http://www.daiokusa.jp/index.html

えくてびあん流

「いのちとこころ」

11月9日 第4回 応現院文化講演会開催

応現院文化講演会実行委員会では平成19年11月9日、「第4回 応現院文化講演会」を開催する。本講演会は「応現院」を文化交流の場として提供することを目的に、広く一般市民対象に行われているもので、これまでに奈良薬師寺の安田暎胤管主、宗教思想研究で活躍しているひろさちや氏、本年2月には駐日エジプト大使 ヒシャム・モハメッド・モスタファ・パドル氏を講師として迎え、毎回聴講者から好評を博している。

今回の講師は比叡山禅光坊住職、瀬戸内寂聴氏。氏は小説家であり、文化功労者・文化勲章受章者、そして宗教家として幅広く活躍。そのエネルギッシュな活動といつも温かい笑顔で飾らない人柄は、多くの人を魅了し、豊かな法話は悩み苦しむ人々を救済してきた。今回は「いのちとこころ」と題し講演する。参加は無料。中学生以上なら誰でも応募できる。応募要項は以下の通り。

応募要項 ◆①または②の方法でお申し込みください。

①往復はがき一住所・氏名・年齢・電話番号・希望人数(本人を含めて2名まで)を明記し、以下に郵送。

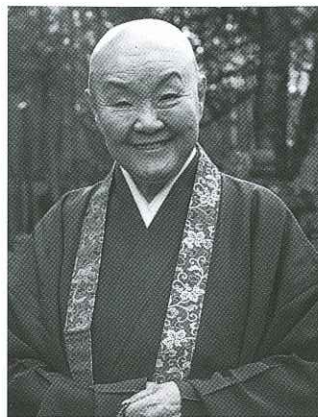
申込先: 応現院文化講演会実行委員会事務局(えくてびあん内)
〒190-0012 立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F

②インターネット(携帯可)一申込アドレス http://www.bunkakoenkai.jp

【締切】10月15日(木)必着/先着700名(メイン会場)・600名(中継会場)

※応募多数の場合は抽選。抽選結果は入場整理券の発送をもって代えさせていただきます。

【問い合わせ先】 応現院文化講演会実行委員会 電話: 042-523-9898



第4回 応現院文化講演会

「いのちとこころ」

瀬戸内寂聴氏(比叡山禅光坊住職)

日時: 2007年11月9日(金)
午後3時開演

午後2時30分開場 講演は約90分
会場: 応現院(立川市曙町935-27)

主催: 応現院文化講演会実行委員会
後援: 立川商工会議所、立川観光協会、立川バス株式会社
協力: 株式会社精神文化映像社、えくてびあん、多摩ではこネット
協賛: 真如苑



この人この店 ⑤

カフェ&レストラン
アバン

佐々木 励子さん

緑川通り沿い、グランドホテルのすぐ近くにあるアバンは、立川に生まれて28年。マスターの佐々木秀貴さんも、ママの励子さんも知り合いがいっぱい。美味しいもの好きには評判が高く、元ドラマーのマスターらしく音楽関係にもお客さまが。ひとつのことを極めたいマスター、ランチのカレーもこだわり抜いて今の味になりました。ママの美味しいコーヒーがついて850円。しかも具の豚肉はゴールデンポーク! 脂身が甘いのが特徴です。香るお米にトロツとかかったカレー。大きなお肉を口に入れると、まず甘くそして次にスパイスの辛さ。タマネギの甘さだけ? 「そう。大量のタマネギも選びに選んだタマネギです。そこに地鶏のスープとスパイスだけ」と励子さん。カレーは好みがあるから気に入って頂けたらありがたいとおっしゃるけれど、おいしいです! 夜はマスターが旬の食材で腕を振るってくれますが、まずはランチで奥様と仲良くなってから。ですよ?



〒190-0012
立川市曙町2-17-15 サンライズビル2F
TEL 042-527-4479
平日ランチ 11:30～14:30(月～土)
平日6時以降は要予約。
定休日 日曜日(祭日は予約があれば営業)
その日の営業は電話で確認してください。



写真撮影: 五来孝平

立川の
お作法
中野 豪清
第3回

公衆道徳



挿画: 綾 幸子

多摩川原のすすきの穂が波打ち涼風が肌心地よい季節。夏の炎暑から解放されてスポーツの秋、文化の秋、行楽の秋と、出かける機会が多くなる。そのような時の公衆マナーを考えてみたい。

日本と欧米の礼儀作法には、心遣いのあり方に大きな違いがあるといわれる。

欧米では、どちらかといえば、自己の尊厳なり権威なり、プライバシーを確保することが優先される。その中で、心遣いは自己を守るために他をも認めるという経緯を経て生まれてきた。

これに対し日本の心遣いは武士社会で確立されたもので、現在自分の置かれている立場なり状況なりを受け入れ、相手に対して己をむなしくして接する。<分際(ぶんばい)の道理>をわきまえた礼儀の型といえる。したがって、自らを抑制する心構えが重要視される。まずは、自己の存在を相手に気づかせるような物音をたてる動作を控える静粛の心遣いであり、同時にまた生理的な欲求をそのまま示さないこととされている。そのような日本の礼儀作法が、第二次世界大戦の敗戦など大きな社会変化を経て現在に至っている。

自由主義をはき違えた欧米志向なのか、公衆の場での傍若無人、不躰が目につく。自己を主張するのみで相手を認めない人が多くなっているということなのだろうか。昭和50年代、ある国の記者が日本人を<エコノミックアニマル>と批判した遠因も、利潤追求のためには手

段を選ばない心遣いの無さを問われたものと思う。欧米流の、自己の尊厳やプライバシーを確保するゆえに他を認める心遣い。そこに、物音を立てて自分の存在をあらわにしない静粛の心遣いや、生理的な欲求をそのまま示さない日本の礼儀作法を、併せて身につけたいものだ。

公共の場では——秩序を守る。タバコの投げ捨てはしない。自分の出したゴミは始末する。公共施設や備品の取り扱い・後片付けは現状維持と現状回復が基本。図書館や展示会場などでの私語は小声で。

街中・日常生活では——道路で子どもは遊ばせない。自転車の通行は歩行者に注意し、駅周辺などに停める際は指定された場所に駐輪する。ゴミは分別・仕分けして出しゴミ置き場は清潔に。

乗り物の中では——車内をやたら歩き回らない。大声・悪ふざけはしない。大きな荷物もち込まない。スキーなどは立てて持つ。新聞は広げて見ない。酔って周りの人にからまない。席を必要以上広く取り足を組まない。居眠りはしない。座席に幼児を座らせるときは気をつける……。

公衆の面前での身だしなみとして大あくびも慎みたい。アベックの抱擁も同様。

公衆の中のマナーをいくつか拾い上げてみた。公衆道徳の基本はやはり、他人に迷惑をかけない、不快感を与えない、それが最も大切なことではないだろうか。

表紙の人

齋藤美智子さん(柏町)

残念ながらこの撮影後、玉川上水駅近くのお店が西武線の北側に移った。行政的には東大和市に入るのだが、ここでは撮影時の柏町のままで通させていただく。女性ならば一度は着てみたいウエディングドレスをはじめ、エレガントなお姫さまドレスが並ぶドレスショップのオーナーがこちらの方。好きが嵩じてマンションの一室で「隠れ家ショップ」を始め、やがて自身のお店に。世の淑女たちの心をとくめかさせるドレスたちを背景に座っていたら、エレガントで不思議な魅力が、ひたひたふわふわと漂うのである。

柏町ワッソルルージュで
写真: 細江英公

かたこと

この号がお手許に届く頃はたぶんさわやかな季節。秋もいよいよ本番です▼秋といえば稔りの秋、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋……何によらず楽しくなるような時期と昔から決まっているようです▼

「この人と」はふだんと趣を変えて対談ではなく「吟友人」の3人の皆さんにご登場いただきました▼どこか厳めしくて敷居の高そうな詩吟を、笑いと涙ありの和風ミュージカル仕立てにして公演を続ける皆さん。立川にこういう文化がしっかりとあることは嬉しいことです▼VIEWはシーズン本番に向け古豪復活に燃える昭和第一学園高校ラグビー部。流行ではないかもしれませんが、汗と埃と時に涙にまみれるラグビーは人を感動させます▼「ここがタチカワ! こども立川!」でご紹介している箱根駅伝予選会も、やはり汗あり喜びと悔しさの涙あり。母校の榮譽をタスキにかけける駅伝も若さの特権といえるでしょう▼えくてびあんも一残念ながら編集者をはじめ若さの特権を持つ歳ではありませんが、せめて秋空に浮かぶ雲のように融通無礙でありたいと願います▼それが無理としても、せめて肥えたサンマにたっぷりとおろしをかけて楽しみましょうか。メタボリックなどとやらには気をつけながら。(芳)

公共の場では——秩序を守る。タバコの投げ捨てはしない。自分の出したゴミは始末する。公共施設や備品の取り扱い・後片付けは現状維持と現状回復が基本。図書館や展示会場などでの私語は小声で。

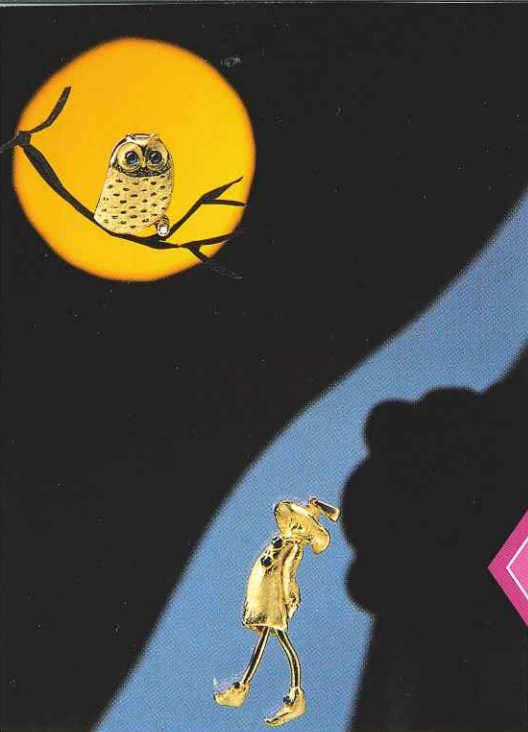
街中・日常生活では——道路で子どもは遊ばせない。自転車の通行は歩行者に注意し、駅周辺などに停める際は指定された場所に駐輪する。ゴミは分別・仕分けして出しゴミ置き場は清潔に。

乗り物の中では——車内をやたら歩き回らない。大声・悪ふざけはしない。大きな荷物もち込まない。スキーなどは立てて持つ。新聞は広げて見ない。酔って周りの人にからまない。席を必要以上広く取り足を組まない。居眠りはしない。座席に幼児を座らせるときは気をつける……。

公衆の面前での身だしなみとして大あくびも慎みたい。アベックの抱擁も同様。

公衆の中のマナーをいくつか拾い上げてみた。公衆道徳の基本はやはり、他人に迷惑をかけない、不快感を与えない、それが最も大切なことではないだろうか。

無断転載を禁じます。



散歩

月夜の小径にふくろうがいた。青い目のふくろうがいた。木々をくぐり、森を抜け、歩く僕についてくる満月。金色に光るふくろうがいた。

輝きのメルヘン

ともやす
ジュエリーコレクションから

3

鳥

テーマには異国ムードが漂うが、できあがったジュエリーには日本人でなければ出せない味がある。蜜蝋のもつ柔らかさと繊細さ。昭さんは自分を「空」にして、蜜蝋に形を生み出させる。

写真：五来孝平

ト音記号

聴こえてくるのは夜想曲。鍵盤も8分の12拍子のロンドを踊る。旋律にきれいな飾りをほどこせば、どこからか、現れてくるのは愛の鳥。

